

パラグラフ・ライティング講座 ： わかりやすく文章を書くために

2024年2月7日（水）

総合図書館LS（人文学研究科・MI）

学術的な文章を書くのは難しいですね…

学術的な文章にたいする不安

- レポート、論文はどうやって書けばいいのか？
- 今まで書いてきた文章とはちがう？
- 感想文との違いは？
- 書いているうちに話が脱線してしまう。
- 読み返すと何が書いてあるか分からない。

⇒そもそも、学術的文章がどのようなものかを知らない人が多い！

学術的な文章とは？感想文との違い

- 感想文：自分の体験したことや、それに伴う心情を主観的に記述する。

例)『〇〇』という本を読んで、「〇〇」という部分は知らなかったのが面白いと思いました。

- 学術的文章（レポート、論文）：自分が立てた問いを、客観的事実を挙げることで論証しながら、答えを明示する文章。

例)『〇〇』という本を読んだが、「〇〇」という部分は「△△」という理由から、「□□」であるのが正しい。

学術的文章は「形式」を持っている。

「問い」→「主張」→「論証」→「結論」という大きな構造に沿って書けば誰でも書くことができる！

「問い」…〇〇は本当にそうか？研究が不十分ではないか？

「主張」…従来は〇〇とされてきたが、じつは□□である。

「論証」…調査により、△△という結果が得られたことがその証左である。

「結論」…〇〇は、△△という調査から、□□である。

「パラグラフ・ライティング」

- 日本語に言う「段落」に相当するもの＝「パラグラフ」
- 「パラグラフ」の構造を意識した文章記述＝「パラグラフ・ライティング」
- 英語の論述において発達した手法で、日本語にも適用可能。
- 日本語の段落では英語のパラグラフのような論理性・構造性が明確に意識されない。→改行の少ない、分かりにくい文章になりやすい。
- 日本の高校までの教育で、こうした文章の書き方をよく習わないため、大学に入ってから困っている人が多い。

突然ですが

次のパラグラフは、四つの文章から成っています。

それぞれの文章は、パラグラフ内でどのような役割を持っていると思いますか？（色ごとに考えてみます。）

京都市内では、LUUPとよばれる電動マイクロモビリティが広く普及している。LUUPとは、電動キックボード・電動自転車のシェアサービスのことである。スマホ一つ持っていれば、街中に設置された電動自転車に簡単に乗り降りすることができる。その利便性等が評価され、京都市と連携しながら更なる設置が進められている。

パラグラフで言いたいことがまとめられた文章

一文目を補強・展開するような文章（LUUPの説明）

京都市内では、LUUPとよばれる電動マイクロモビリティが広く普及している。

LUUPとは、電動キックボード・電動自転車のシェアサービスのことである。スマホ一つ持っていれば、街中に設置された電動自転車に簡単に乗り降りすることができる。

その利便性等が評価され、京都市と連携しながら更なる設置が進められている。

二、三文目をふまえた結論となるような文章

パラグラフ・ライティングの用語

「パラグラフ・ライティング」はトピック・センテンス、サブ・センテンス、(コンクルーディング・センテンス)から成る。

トピック・センテンス: 読み手に内容の見通しを与えるために、そのパラグラフで何を述べるかを一文で述べたもの。

サブ・センテンス: トピック・センテンスで提示された内容を展開する文章。言い換え、具体例、語句の説明などを行う。

(コンクルーディング・センテンス): パラグラフの最後に置く、パラグラフのまとめの文。あってもなくてもいい。

パラグラフ・ライティングの大原則

- ①トピック・センテンスは、原則としてパラグラフの文頭に置く。
- ②一つのパラグラフの中での主張は一つに留める。

パラグラフ・ライティングとは、論理的文章の執筆に有効な記述法である。

「パラグラフ」とは、日本語の「段落」に相当するもので、パラグラフを文章の構成単位として論文を構造的に記述してゆくことを、「パラグラフ・ライティング」という。パラグラフ内には、トピック・センテンスとサブ・センテンスという二つの文章があり、文頭に置くトピック・センテンスでそのパラグラフ内の主張を一言で述べ、続くサブ・センテンスでトピック・センテンスの主張を展開する。この手順により、文章全体に論理性・構造性が生まれるため、レポート・論文などの学術的文章に適応すれば、分かりやすい文章を書くことができる。

パラグラフ・ライティングの構成

- 隣り合うパラグラフどうしは論理的な結び付きを必要とする。
- 接続詞を上手に使うなどして、パラグラフどうしを論理的につなげる。
- 一つのパラグラフ内の文字数はだいたい200字から400字。

パラグラフ・ライティングの大原則の一つ目は、トピック・センテンスは文頭に置くということである。

トピック・センテンスを文頭に置くことによって、そのパラグラフ中に何が書かれているか、読み手に見通しを与えることができる。

二つ目の原則は、一つのパラグラフの中で述べる「主張」は一つに留める、というものである。

トピック・センテンスで主張を述べ、サブ・センテンスでその主張を展開する。このとき、サブ・センテンス内で主張と無関係のことを述べてはならない。

パラグラフ・ライティングの構成②

- さらに巨視的にみると、「問い」「主張」「論証」「結論」

という構造になるようにする。

- このようなパラグラフを最小単位とした組み立てによって、論理的なレポートや論文は完成する。

第一章 第一節

「問い」

「主張」

「論証」

「結論」

第二節

「問い」

「論証」

「主張」

「結論」

パラグラフ・ライティングのルールに従って、次の文章を点検してみましょう。

京都市内では、LUUPとよばれる電動マイクロモビリティが広く普及している。LUUPとは、電動キックボード・電動自転車のシェアサービスのことである。スマホ一つ持っていれば、街中に設置された電動自転車に簡単に乗り降りすることができる。その利便性等が評価され、京都市と連携しながら更なる設置が進められている。普及促進の一方で、電動キックボードの安全性については未だ疑問が残る。電動キックボードは「特定小型原動機付自転車」に分類されるため車道を走行しなければならないが、ヘルメットを着用するかどうかは法律的には「努力義務」であり、絶対着用ではない。また、SNS上では違反的な乗り方をする人が交通事故を起こす動画なども散見される。

株式会社LUUPはこうした現状をうけて、乗車時の安全性を高めるための様々な取り組みを実施している。例えば、安全に乗車するための講習会を定期的に関

催したり、乗車には運転免許証の登録や交通ルールのテストに合格することを条件とするなどの規定を設けたりしている。

つまり、どれだけ乗る人の安全対策を講じても、乗り物自体の安全性が確保されていなければ、交通事故が起こったときに大けがを負うことは免れない。交通事故は、乗る人の意識が高くとも、そのほかの外的要因によって、起こるときは起こってしまうものだからである。例えば、高齢者がアクセルとブレーキを踏み間違い、ガードレールに突っ込んでしまう事故も問題になっている。高齢者は判断力があるうちに、運転免許証を返納するべきである。

今のところ、LUUP側はヘルメットの着用を呼びかけてはいるものの法的拘束力を持たないことや、またヘルメットが用意されておらず自分で用意するほかないことなどもあり、街でヘルメットを着用して乗車している人はほとんどみられない。ヘルメットの着用を義務化するなど、電動キックボードに乗る人の物理的な安全性を高めるような仕組みを導入すべきであろう。LUUP側でヘルメットを設置することができれば良いのだが、それが実現されるにはまだ課題が残されている。

ワーク2 答

パラグラフ内の主張は一つにするため改行

評価され、京都市と連携しながら更なる設置が進められている。(改行)

普及促進の一方で、電動キックボードの安全性については未だ疑問が残る。電動キックボードは「特定小型原動機付自転車」にしなければならないが、ヘルメットは法律的には「努力義務」である。また、SNS上では違反的動画なども散見している。

株式会社LUUPはこうした課題を解決するための様々な取り組みを実施している。例えば、安全に乗車するための講習会を定期的

話が脱線しているので削除

パラグラフの要約となる文章を文頭に配置

催したり、乗車には運転免許が必要であることを示す必要がある。しかし、~~物自体の安全性が確保できず、ときに大けがを負う~~意識が高くとも、そのほかの外的要因によって、起こるときは

起こってしまうものだからである。~~例えば、高齢者がアクセルとブレーキを踏み間違い、ガードレールに突っ込んでしまう事故も問題になっている。高齢者は判断力があるうちに、運転免許証を返納するべきである。~~

したがって、ヘルメットの着用を義務化するなど、電動キックボードに乗る人の物理的な安全性を高めるような仕組みを導入すべきであろう。今のところ、LUUP側はヘルメットの着用を呼びかけてはいるものの法的拘束力を持たないことや、またヘルメットが用意されておらず自分で用意するほかないことなどもあり、街でヘルメットを着用して乗車している人はほとんどみられない。~~ヘルメットの着用を義務化するなど、電動キックボードに乗る人の物理的な安全性を高めるような仕組みを導入すべきであろう。~~LUUP側でヘルメットを設置することができれば良いのだが、それが実現されるにはまだ課題が残されている。

効果的な接続詞に変更

ルのテストしている。でも、乗り手がヘルメットを着用しない場合、乗る人の

パラグラフ・ライティングの点検と心得

○パラグラフ中の問題

- ・トピックセンテンスが文頭にあるか。
- ・サブセンテンスが、トピックセンテンスとどう結びつくか説明できる。
- ・パラグラフ中のトピックは一つになっているか。

○パラグラフ構造中の問題

- ・トピック・センテンスだけを読んでいくと、論文のアウトライン（要約）になるか。
- ・効果的な接続詞によってパラグラフがつながられているか。

まとめ

- パラグラフはトピック・センテンスとサブ・センテンスから構成し、パラグラフ内は一つのトピックに限定する。
- 接続詞などをうまく使いながら、パラグラフどうしがそれぞれ論理的な関係になるようにする。
- 点検する際には、サブ・センテンスの内容がトピック・センテンスと結びついているか、トピック・センテンスだけを読むと論文のアウトラインがつかめるかなどの点に注意をする。

⇒逆に言えば、書くときにはまずトピック・センテンスだけを書いていって全体の骨子を整え、その後それぞれのトピック・センテンスの中身を膨らませていくと良い。

参考文献（書籍）

赤字はおすすめ

- 戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版
- 木下是雄(2002)『理科系の作文技術』改版、中公新書
- 木下是雄(1994)『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫
- 田中草大(2022)『 #卒論修論一口指南』、文学通信
- 本多勝一(2015)『【新版】日本語の作文技術』、朝日文庫
- 清水幾太郎(2015)『論文の書き方』改版、岩波新書

参考文献（WEB上で見られるもの）

○論文

- ・永井敦(2023)「パラグラフ・ライティングの基本ルール：日本語パラグラフ・ライティング教育の体系化に向けて」、『神戸大学留学生教育研究』、第7巻、pp.1-20

※神戸大学学術成果リポジトリより閲覧可能

<https://doi.org/10.24546/0100482093>

○WEBサイト

- ・石原尚(2016)「パラグラフライティングの作法 -書き手にもメリットのある文配置ルール-」、『Systems Android Robotics』<http://www.ams.eng.osaka-u.ac.jp/user/ishihara/?p=566> 2024/01/31最終閲覧)
- ・名古屋大学高等教育研究センター「レポートの構成とパラグラフ・ライティングを知る」
『名古屋大学生のためのアカデミック・スキルズ・ガイド』
<https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/asg/writing03.html> 2024/01/31最終閲覧)